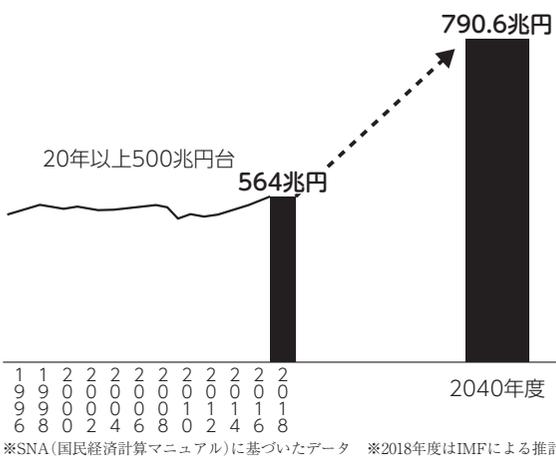


6/25  
2018年第1302号  
(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会  
敬愛会  
志岐  
大坂市浪速区幸町1-2-33  
電話(06)6568-7731(代表)  
http://osk-net.org/  
●定価・年間10,000円 月1,000円  
●1977年5月23日第三種郵便物認可

## 現実離れた政府のGDP試算



政府発表の  
社会保障費190兆円

# 危機煽る虚飾の推計

2040年度の社会保障費は190兆円。政府が経済財政諮問会議に提出した推計が波紋を呼んでいる。試算を受け、諮問会議では社会保障費削減を求め、発言が相次いでいる。190兆円という数字をどうみるか。江原政策部長に聞いた。

## 江原政策部長解説

政府が初めて40年度 増加し、190兆円に膨らむまでの社会保障費の見通しを示した。18年度から約70兆円も「消費増税やむなし」と



考えるなら、安倍政権の思うツボだ。

私たちは患者を治療する時、問診やレントゲン写真の読影などを通じて痛みの原因を探る。それと同じように、政府が発表した数字もじっくりと見定める必要がある。

「190兆円」という数字をどう「診断」するか。

「190兆円」は、あり得ない前提で積み上げられた虚飾の数字だということを目指したい。

試算の根拠になった数字をひも解いていくと、まず注目したいのが国内総生産(GDP)だ。政府は40年度のGDPを790兆円と推計している。今より200兆円以上も経済成長するという。

日本のGDPは20年で500兆円台で推移しており、直近の18年1〜3月期の成長率は年率換算でマイナス1.5%。それが一転、急成長を遂げ、22年後には4割も増えるとの内容だ。

C1のう蝕なのに、C4と患者に説明するようなのであり、大風呂敷の可能性もあるものと想定して予防策を講じること(スタンダードプリコーション・標準予防策)が求められる。歯の切削、歯石除去などによる飛沫汚染、血液や唾液から交叉感染を引き起こす危険性についても十分認識し、感染予防対策に取り組む必要があるのだ。こうした標準予防策が普及する以前には、歯科医師のウイルス肝炎罹患率の高さが問題になった時代もあったと聞く。

大幅に経済成長するならば分かったが、税収はどうなるのか。諮問会議は6月15日に経済財政運営の指針「骨太の方針」をまとめた。こんな試算を基に消費増税や社会保障費削減を迫ることは断じて許されない。

経済成長に伴って物価も賃金も上昇する。コストの増大を反映し、診療・介護報酬や年金、生活保護などは軒並み増える。物価の政府推計は、40年度まで毎年上昇し続けることになっている。日本はデフレ状態で、過去20年間(1996〜15年)の平均伸び率は0.1%。それが18年度比で3割も上昇するとしている。

賃金の推計はもっと悪質だ。過去20年間(同)の平均伸び率はマイナス0.6%なのに、40年度には18年度比で6割増える。平均月給が現在の31万円から20年後には50万円になる計算だ。

「190兆円」は、あり得ない前提で積み上げられた虚飾の数字だということを目指したい。

## 医療の現場から 院内感染防止を考える ②

福岡県歯科保険医協会 副会長 浦川 修



歯科の臨床現場に求められる「院内感染防止対策」とはどのようなものだろうか。

「HCVあるいはHBV感染者における歯科治療時の自己申告調査」(※1)によると、ウイルス肝炎患者のうち、歯科受診の際に感染者であることをいつとも申告する患者は59.8%、申告することもあるがしないこ

口腔を治療対象とする歯科では、血液や唾液、分泌物などを介する感染

ともある患者は12.0%、申告しない患者は28.2%であった。つまり感染症の申告の有無にかかわらず(分け隔てなく)、歯科医療機関では適切な感染防御の実施が重要になるだろう。

「患者ごとの滅菌」 「歯科医療における感染管理のためのCDCガイドライン」 「歯科医療における感染管理のためのCDCガイドライン」

「患者ごとの滅菌」 「歯科医療における感染管理のためのCDCガイドライン」 「歯科医療における感染管理のためのCDCガイドライン」

「患者ごとの滅菌」 「歯科医療における感染管理のためのCDCガイドライン」 「歯科医療における感染管理のためのCDCガイドライン」

## 求められる標準予防策



医院でご活用ください。(詳細は3面)

## 協会直通番号のご案内

保険請求のご相談や年金・休業保障制度のお問い合わせは直通番号をご利用ください。  
社保研究部 06-6568-7467  
共済部 06-6568-7438

## 2018年夏季特集号 投稿を募集

テーマは「私の健康法」

新聞部は、夏季特集号(8月15日付)への会員投稿(原稿)を募集している。原稿は、600字以内で、テーマは「私の健康法」。顔写真を同封または、添付して応募する。応募は、郵便、ファックス、メール、担当: tsu@doc-net.or.jp(担当:堤)

## 大阪北部地震

### 被害にあわれた先生はご一報ください

18日に大阪北部を震源とした地震が発生し、各地で被害をもたらしました。被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。被害にあわれた会員の先生は、協会(TEL06-6568-7731)までご連絡ください。また、保団連では、日常的な防災管理と災害時の対応、大規模災害時の医療提供についてまとめた災害対策マニュアル「知って安心『患者・住民の災害対策』」を発行しています。協会ホームページもしくは、下記URLからアクセスし、ダウンロードしてお使いください。  
https://hodanren.doc-net.or.jp/news/teigen/170727\_saigaitaisaku.html

## 歯界

「歯固め」は、乳児の歯が生え始めた不快感を緩和するために用いられることが一般的だが、歯や顎の成長を促すだけではなく、脳も刺激すると言われている。

最近ではシリコン製などの素材で、かわいらしいデザインの歯固めが販売されている。しかしその昔は、歯固めには「スルメ」だと、今の親からしたら信じられない方法が通説となっていた。

は、平安時代に起源がある。当時、元日と6月1日に饅餅、大根、押し鮎、勝栗など硬いのもすべて健康長寿を祈る風習があり、「歯」は「齢」に通じることから、齢を固めて長寿を願った。現代においては、子の健康と長寿を願い「お食い初め」とセットで行われることが多い。また、日本チューインガム協会は、6月1日をチューインガムの日と定めている。

相次ぐ政府の不祥事に歯がゆい思いをしている。こればかりはスルメを噛んでもどうにもならない。(Y)